

第2回 県立高等学校改革懇談会 『須賀川・長沼』

日時：令和 2年 2月 6日（木） 14：00～15：30

場所：長沼高等学校 会議室

福島県教育委員会

本日の進め方

1	須賀川・長沼統合校の方向性について
2	第1回懇談会でいただいた御意見について
3	スケジュールについて

1

須賀川・長沼統合校の 方向性について

急激に進行する少子化

- 全県的な中学校卒業見込者数の減少
 - ・ 2017年から2028年間で約5,300人の減少
- 須賀川市・岩瀬郡の中学校卒業見込者数
 - ・ 10年間で207人 (21.9%)の減少
- 両校の定員充足率の状況（直近3年間）
 - ・ 須賀川 99%(239名) → 100%(200名) → 95%(190名)
 - ・ 長 沼 58% (46名) → 29% (23名) → 48%(38名)

高校改革（再編整備）は喫緊の課題

統合校の方向性

須賀川高校

定員200名

- 普通科(4学級)
- オフィス情報科(1学級)

長沼高校

定員80名

- 普通科(2学級)

2022年(令和4年)4月開校予定
須賀川・長沼統合校(仮称)

定員: 240名 普通科6学級

場所: 須賀川高校校舎

統合校のイメージ

キャリア指導推進校

地域を支える核
となる人材の育成

生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実により、
大学進学から就職までの多様な進路希望を実現するための学校

● 個に応じた丁寧な学習指導とキャリア教育

須賀川高校と長沼高校の取り組みを継承した丁寧な学習指導とキャリア指導による、生徒の多様な進路希望の実現

● ICT機器の活用とアクティブ・ラーニング

ICT機器を活用したアクティブ・ラーニング型など、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、課題解決に取り組む人材の育成

● 地域との関わりの中で自己を見つめる教育

自治体、地域医療や福祉、地元企業など、様々な分野と連携することで、地域を知り、郷土への愛着を深め、自己の将来の在り方を探究

個に応じた丁寧な
学習指導

大学進学から就職まで
多様な進路希望に対応できる
コース制の導入

主体的・対話的で
深い学びの実現

地域をフィールドとした
探究的な学びの導入

I C T 機器利用の
環境整備

商業科の学び
の継承

須賀川・長沼統合校(仮称)

開校年度(2022年度)のイメージ

新高校を卒業

3年生

(2020年 須賀川高校に入学)

現中学3年生

3年生

(2020年 長沼高校に入学)

2年生

(2021年 須賀川高校に入学)

現中学2年生

2年生

(2021年 長沼高校に入学)

1年生(2022年に入学)

新しいカリキュラム

須賀川高校の
カリキュラム

長沼高校の
カリキュラム

2

第1回懇談会でいただいた
御意見について

① 改革を進めるに当たって

- ・改革には多少なりとも痛みが伴う。意見が分かれた場合は、エビデンスとデータを示し、「こうすれば、こんな結果になる」という説明をしてほしい。

② 高校の規模と「きめ細かな指導」について

- ・長沼高校には小規模校の良さがある。統合後、課題を抱える生徒をどこが引き受けるのか。
- ・一定規模の集団の中で、もまれながら大人になっていく面もあり、子どもたちにとって、小規模校が必ずしも良いとは限らない。
- ・長沼高校にはⅢ期選抜で入学した生徒もおり、そんな子供たちを支えてくれたのは、先生や仲間たちである。そういう生徒も大事にするような学校にしてほしい。

③ 統合校の魅力化や特色化について

- ・子供たちの学習環境を望ましいものにすることを最優先にすべきである。
- ・子供たちが何に魅力を感じて高校を選択するかが大切だ。

望ましい学校規模について

文部科学省

集団の中で切磋琢磨しながら学習したり、社会性を高める学校の特質に照らし、学校は本来一定の規模を確保することが望ましい。

平成27年1月
中央教育審議会

福島県学校教育審議会

望ましい学校の規模を1学年4学級以上とする。1学年3学級以下の学校については、地域の関係者の意見も聴くとともに、学校の魅力化を図りながら、都市部も含めて学校の統合を推進するべきである。

平成29年6月
学校教育審議会

生徒の学びへの影響について

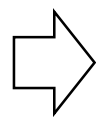
受講できる科目の制限

学級数 (例)	開講科目数 (例)	教員が担当する科目数
6	50	1.2
5	47	1.3
4	45	1.6
3	43	2.0
2	41	2.7
1	34	4.3

学校の
小規模化



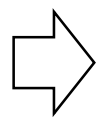
開講科目数の減少
(選択科目の減少)



学びの多様性
が縮小



教員が受け持つ
科目数の増加



専門外の科目
を担当

学校での教科・科目 (例)

教科

科目

英語
数学
理科
地理歴史
公民
国語
保健体育
家庭
情報
芸術
L H R

英語 英語表現 英語会話
数学(I, II, III) 数学(A, B)
物理 化学 生物 地学
世界史(A, B) 日本史(A, B) 地理(A, B)
現代社会 倫理 政治・経済
国語総合 現代文(A, B) 古典(A, B)
体育 保健

音楽 美術 書道
ロングホームルーム

① 改革を進めるに当たって

学校規模別の比較

成績・時間割の管理など
学校運営全体のまとめ役の部署

教員の校内業務

クラス担任、副担任、**教務**、**生徒指導**、**進路指導**、
保健、渉外、総務、地域連携、生徒会、図書、視聴覚

	1学年6学級	1学年4学級	1学年3学級	1学年2学級
教員が担当する科目数	1.2	1.6	2	2.7
部活動数	運動部 1 5	運動部 1 1	運動部 8	運動部 8
	文化部 1 3	文化部 9	文化部 3	文化部 3
教務（専門の教員数）	6	6	2	2
進路（専門の教員数）	4	4	2	1
生徒指導（専門の教員数）	5	3	2	1
学校司書	1	1	0	0

高校での内的支援

担任による面接週間・個別指導・
個別相談
各種アンケート
(いじめ・悩み事、学校評価)

スクールカウンセラー
学校医

特別支援コーディネーター
スクールソーシャルワーカー
教育相談チーム
ケース会議

きめ細かな学習指導

チームティーチング授業
習熟度別授業

振り返り・学び直し学習
課題テスト

学習支援員
就職促進支援員

生徒

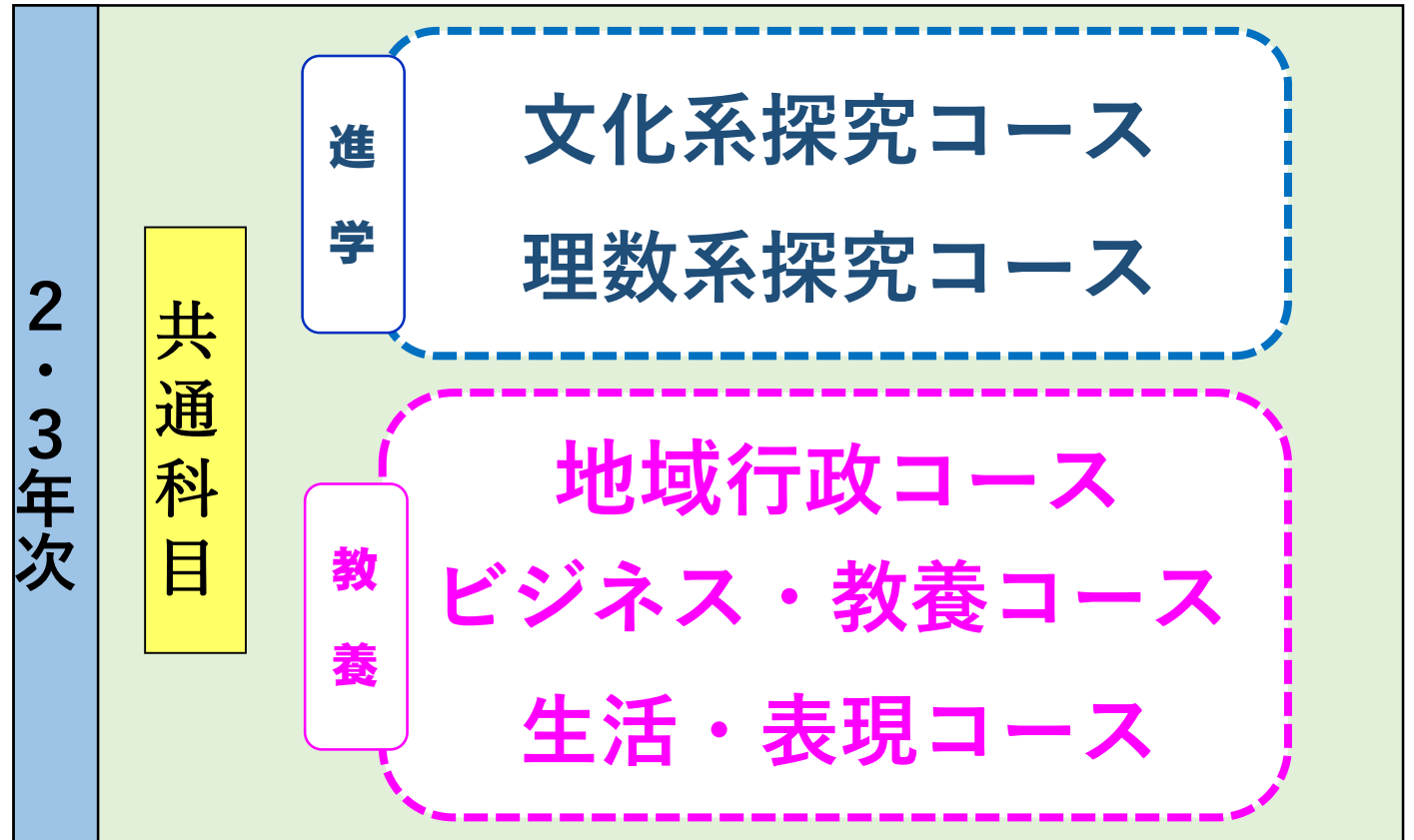
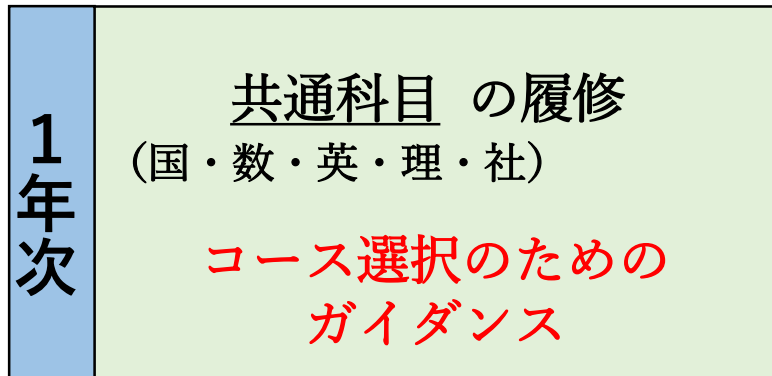
生徒一人一人に対する複数の専門の先生による関わりと支援

多様な進路希望の実現に向けた丁寧な学習指導と進路指導

- ・ 国公立をはじめとする四年制大学・短期大学への進学
- ・ 看護・医療系、各種専門学校への進学
- ・ 民間企業への就職、公務員

生徒が学びたい分野に応じて
選ぶことができる

コース制 の導入



文化系探究コース

国公立をはじめとした四年制大学・短期大学進学への
確かな学力の定着と知識を深める学び

上級学校への進学に対応した学び

知識を深める学び

言語力の
向 上

▶ 国語や英語などにおいて言語(活動)を中心に据えて学ぶ
(俳句を題材とした学び)

グローバルな
視点の獲得

▶ 世界や日本の歴史から、地域の歴史と文化を焦点化
(歴史・文化の考察)

理数系探究コース

国公立をはじめとした四年制大学・短期大学進学への
確かな学力の定着と知識を深める学び

上級学校への進学に対応した学び

知識を深める学び

ものづくりの視点
の獲得

数学や理科において、ものづくりなどの
理工系について学ぶ

地域行政コース

公務員や団体職員として、地域の行政等に関わろうとする契機付けと必要な知識・技能の習得

基礎学力の確実な定着

知識を深める学び

地域行政に関わる
知識・技能の獲得

様々な社会問題に
対応できる能力の育成

例

文章構成（小論文）
コミュニケーション力

地域課題
探究

『地域の課題』をテーマに
総合的な探究の時間の活用

須賀川市役所や
地元経済団体との
連携

地元を知り
郷土への愛着
を深める

ビジネス・教養コース

各種資格取得を目指し、民間企業への就職に
必要な知識・技能の習得

基礎学力の確実な定着

知識を深める学び

商業の学び
の継承

商業の学びを継承し、
即戦力を目指した学び

例

各種検定試験での資格取得

- ・全商簿記検定
- ・全商情報処理検定
- ・全商ビジネス文書検定 など

インターン
シップ

須賀川市役所、地元経済団体と
連携し、市内各所・多様な業種

勤労観の醸成と
地元産業の理解

生活・表現コース

各教科の基礎的内容の定着と、看護・福祉・保育・芸術・スポーツの上級学校進学に必要な知識・技能の習得

基礎学力の確実な定着

専門性を深める学び

専門的な学びの充実
(看護・福祉・保育)

体験活動をベースとした
学びの展開

例

各機関における
体験活動

専門的な学びの充実
(芸術・体育)

専門教科・科目の
時数増による学びの展開

例

学校設定科目

インターン
シップ

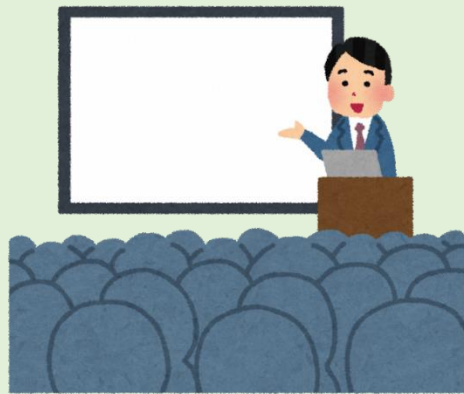
地元の保育園・幼稚園、病院、介護
福祉施設等と連携した多様な業種

勤労観の醸成と
職業理解

地 域 連 携

◎ 外部講師活用

上級学校の先生による**出前講座**
地元産業の技術者による**講演**



生徒の進路意識向上及び
進学への動機付け

◎ 須賀川市、地元経済団体と 連携した取組み

地域課題探究

インターンシップ



地元産業の理解
勤労観・職業観の育成

◎ 伝統文化の継承



◎ 地域活性等の課題の解決に向け、
当事者意識を持って取り組み、
主体的に、
他と協働する力を
を養う



地元を知る

これらの学びをとおして

解決力・表現力、貢献

課題解決力、自己表現力、地域貢献、郷土への愛着

ICT機器を活用した

- 「分かる授業」の実践
- 「主体的、対話的で深い学び」の実践

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C1 発表や話し合い



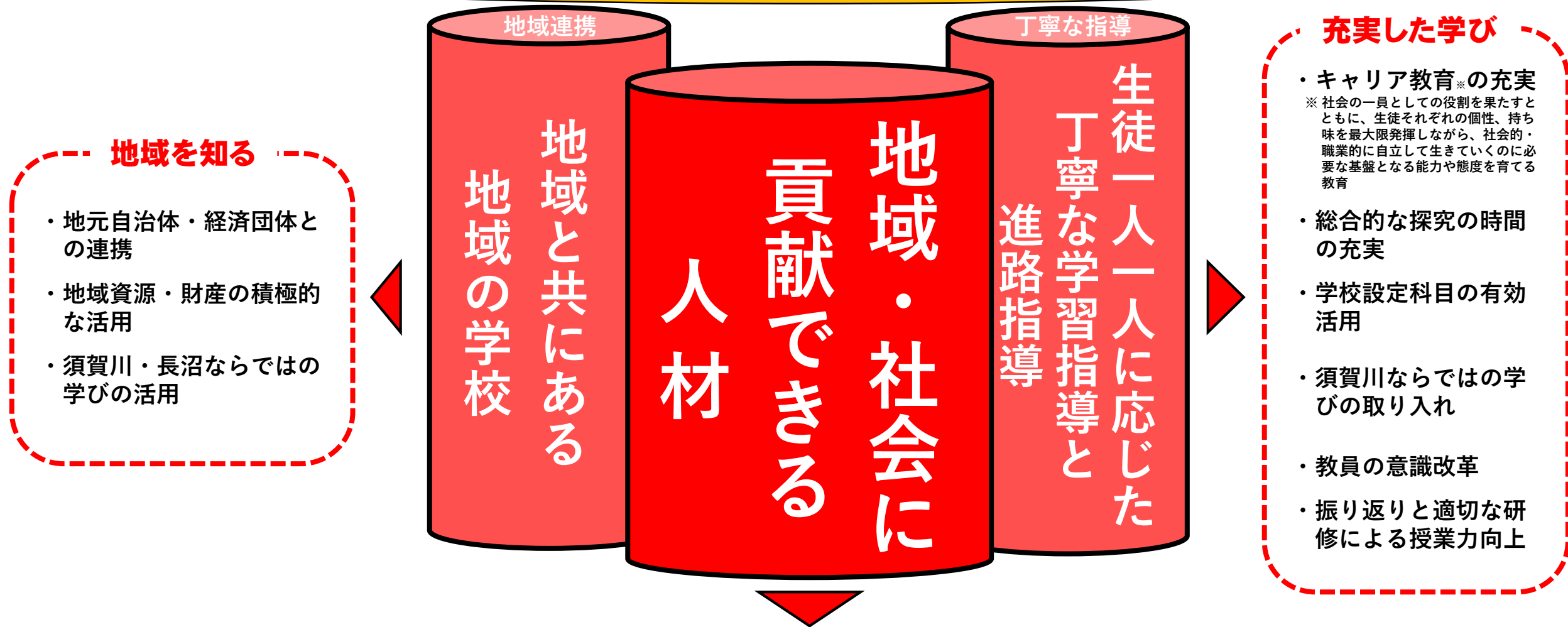
グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

キャリア指導推進校



須賀川の『財産』（知・力）となって、これからの須賀川を創る

3

スケジュールについて

教育内容検討委員会及び校内ワーキンググループにおける 開校準備スケジュール(案)

2019年度 (令和元年度)					2020年度 (令和2年度)									2021年度 (令和3年度)									2022年度 (令和4年度)						
11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
両校の教職員による教育内容検討委員会及び校内ワーキンググループ																													
統合校の教育目標・教育方針・校訓・ 教育課程等の検討と作成					(令和3年度完成) 統合校の校章・校歌・校旗の検討 統合校の校名検討・決定									統合校の案内の作成			統合校体験入学実施			生徒交流会 の実施			統合校入学者選抜			統合校 開校式 入学式			
統合校の魅力化・特色化の検討														中学生・保護者への説明会															
					2020年度(令和2年度)入学生 【統合時3年生】現：中学3年生									2021年度(令和3年度)入学生 【統合時2年生】現：中学2年生															